

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年9月7日(2017.9.7)

【公表番号】特表2016-528231(P2016-528231A)

【公表日】平成28年9月15日(2016.9.15)

【年通号数】公開・登録公報2016-055

【出願番号】特願2016-531836(P2016-531836)

【国際特許分類】

C 07 K	14/475	(2006.01)
C 07 K	14/47	(2006.01)
A 61 K	38/00	(2006.01)
A 61 P	43/00	(2006.01)
A 61 P	3/00	(2006.01)
A 61 P	3/10	(2006.01)
A 61 P	3/04	(2006.01)
C 12 N	15/09	(2006.01)

【F I】

C 07 K	14/475	
C 07 K	14/47	Z N A
A 61 K	37/02	
A 61 P	43/00	1 1 1
A 61 P	3/00	
A 61 P	3/10	
A 61 P	3/04	
C 12 N	15/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成29年7月28日(2017.7.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式Iの構造を有しているカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト、あるいはその薬学的に許容され得る塩：

X¹ - Y¹ - Z¹

(I)

式中：

X¹は、以下の一般式を有している、6又は7個のアミノ酸残基を含有しているN末端断片であり：

X₁ X₂ X₃ Th r X₄ Th r C y s (配列番号6)

式中、X₁は、A l aもしくはC y sであるか、または存在せず、X₂は、C y s、S e rまたはG l yであり、しかしただし、X₁とX₂の少なくとも1つがC y sであり、X₁またはX₂の1つだけがC y sであり、X₃は、A s pまたはA s nであり、そしてX₄は、A l aまたはS e rであり、式中、X¹の末端C y sは、X₁またはX₂中のC y s残基とジスルフィド架橋を形成することができ；

Y¹は、15個のアミノ酸残基を含有している中心のコアであり、ここでは、前記中心

のコアは以下の一般式を有しております：

X₅ Leu Gly Arg X₆ X₇ Glu X₈ X₉ X₁₀
Arg X₁₁ X₁₂ Thr X₁₃ (配列番号7)

式中、X₅は、ValまたはMetであり、X₆は、LeuまたはTyrであり、X₇は、SerまたはThrであり、X₈は、AspまたはGluであり、X₉は、PheまたはLeuであり、X₁₀は、HisまたはAsnであり、X₁₁は、PheまたはLeuであり、X₁₂は、HisまたはGlnであり、X₁₃は、PheまたはTyrであり；

そして

Z¹は、10個のアミノ酸残基を含有しているC末端断片であり、前記C末端断片はC末端アミドを含有しております、前記断片は以下の一般式を有しております：

Pro X₁₄ Thr X₁₅ Val Gly Ser Lys Ala Phe (配列番号8)

式中、X₁₄は、ArgまたはGlnであり、X₁₅は、AsnまたはAlaである。

【請求項2】

X₁がCysであり、そしてX₂が、SerまたはGlyである、請求項1に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項3】

X₂がCysであり、そしてX₁がAlaである、請求項1に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項4】

X¹が配列番号9を含む、請求項1に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項5】

Z¹が配列番号10を含む、請求項1に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項6】

配列番号1、配列番号2、配列番号3、配列番号4、配列番号5、およびそれらの薬学的に許容され得る塩からなる群より選択される、カルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項7】

前記アミド基が-C(O)NH₂である、請求項1～6のいずれか1項に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項8】

以下を含有している薬学的組成物：

薬学的に許容され得る賦形剤；および

請求項1～7のいずれか1項に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項9】

代謝障害を処置するための、有効量の請求項1～7のいずれか1項に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項10】

前記代謝障害が糖尿病および肥満を含む群より選択される、請求項9に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項11】

以下を含有している薬学的組成物：

薬学的に許容され得る賦形剤；および

請求項6に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)アゴニスト。

【請求項12】

代謝障害を処置するための、有効量の請求項6に記載のカルシトニン遺伝子関連ペプチ

ド (C G R P) アゴニスト。